

数値

2018. 9.30.

担当医が9月28日に夫の血液に関する、《検査時系列情報》という印刷物を下さり、経過がよくなっていますね、と言ってくれたそうです。私は喜んで見てみると、血液検査の8種類の検体の数値が時系列に並んでいました。その中で理解できたのは「白血球数」だけでした。意味不明の物質と、また、その数値も意味不明。そういうわけで、帰宅後に血液についてインターネットで調べてみました。面白かったのは **HORIBA** という分析技術のホームページです。血液検査は例えて言えば、道路に走っている自動車の種類やその数から、その地域の経済状態などを推測するのに似ているというわけです。夫の数値が基準値内にあるものもあり、私の安心度は高まりました。

血液細胞	基準値	働き
赤血球 	375~500	「赤血球」はおもに酸素を運ぶ役割をします。生活に必要な人や物を運搬する車といえます。 バス・自家用車・自転車 などによく見かけ、数もたくさんあります。
血小板 	13.0~36.9 34.2(夫)	「血小板」は血管の傷を修復する働きがあります。傷がないときにもあらかじめ血液中に流れています。 工事用車両 と考えればよく、日常でもときどき見かけますね。
血色素量	13.9~16.0 9.4(夫)	血色素量(血液中の ヘモグロビン濃度)が低くなると体の隅々にまで酸素を送れなくなります。
白血球 	35~91 50(夫)	「白血球」は大きく分けて5種類あり、とてもうまく役割分担しています。生体の防衛を担当し、例えば軍隊でしょうか。健康な人では数は非常に少なく、日常で 軍用車 が走りまわるのをほとんど見かけないのと同じです。代表的なものは下の3種です。
NEUT 数 LYM 数 MON 数	44.0~72.0 34.2(夫)	「好中球(NEU)」は白血球の約6割をしめます。白血球中もっとも数が多く、外敵との戦いでいちばん活躍する白血球の エース的存在 です。ただし好中球は、外敵が抗体でラベルされないため敵としての認識ができないので、リンパ球の支援が必要です。
	18.0~59.0 87(夫)	「リンパ球(LYM)」は白血球のおよそ1/3をしめていて、免疫反応の中では「 知的中枢 」を担当し、相手を敵だと認識したり、それに対する抗体を作ったりします。「リンパ」の語源は「澄んだ」という意味ですが、これは細胞質の透明性が高いことから名づけられました。
	0.0~12.0 64(夫)	「単球(MON)」は、白血球の約5%をしめています。白血球の中では連携性が弱い反面、動きが速く、「 軍隊 」というよりも「 警察 」や「 機動隊 」に近い特徴があります。つまり、正規軍であるリンパ球や好中球を組織するには時間と手順がかかりますが、単球は自分で敵を認識し、自由に動いて局地戦を素早く鎮めます。また、体内の老廃物を処理するのも単球の役目です。
LDH	120~242 229(夫)	LDH(乳酸脱水素酵素)は、細胞内で糖をエネルギーに変える際に必要な酵素の1つで、あらゆる臓器に含まれていて、それらの細胞が障害(破壊)を受けると細胞外に出るため血液中のLDHは高値になります。高度上昇の場合は、悪性腫瘍や溶血性貧血が疑われます。
CRP	0.3以下 1.27(夫)	CRP(C-リアクティブ・プロテイン)は、炎症や組織細胞の破壊が起こると血清中に増加するタンパク質のことです。 写真:「病院の検査の基礎知識」より 数値:測定法:JSCC 標準化対応法